

出会

No. **73** 2016. 3. 18

キリスト教教育委員会



また、あなたが畑に種を蒔いて得た勤労の初穂の刈り入れの祭り、年の終わりにはあなたの勤労の実を畑から取り入れる収穫祭を行なわなければならない。(出エジプト記23章16節)

大学HP「フォトリポート」より

「人類の自己家畜化」(ヨハネ福音書10章11節)

——「わたしは良い羊飼いの譬に寄せて——

循環農学類 キリスト教応用倫理学研究室 小林 昭博

ただ「共にいる」こと

獣医学類 衛生環境学分野獣疫学ユニット 蒔田 浩平

共に生きることを目指して

日本キリスト教団野幌教会牧師 朴 美愛

卒業式は「収穫感謝祭」

環境共生学類 資源再利用学研究室 押谷 一

「人類の自己家畜化」(ヨハネ福音書10章11節)

——「わたしは良い羊飼い」の譬に寄せて——



循環農学類 キリスト教応用倫理学研究室 小林 昭博

わたしは良い羊飼いである。

良い羊飼いは羊たちのためにその命を棄てる。

(ヨハネ福音書10章11節 [私訳])

わたしは良い羊飼い

「わたしは良い羊飼い」とのイエスの言葉は、本学の学生はもとより、キリスト教にあまり接したことのない人にも広く知られている聖書の一節です。イエスが弟子たちを導く「羊飼い」であり、弟子たちはイエスに導かれる「羊」であるとの譬には、古代イスラエルの半遊牧の民のエートスが息づいています。それは特に「ヤハウェ [= 神] はわたしの羊飼い」(詩編23編1節)との旧約聖書の言葉が示すように、羊飼いである神が羊である人間を養い導くとの思想を受け継いでいます(詩編23編2-3節参照)。

人類の自己家畜化

このように神と人の関係を羊飼いと羊の関係に喩える発想は、私見ではドイツの人類学者エーゴン・フライヘア・フォン・アイクシュテット(1892-1965年)によって提唱された「人類の自己家畜化」(Selbstdomestikation des Menschen)と通底するもののように思われます。

アイクシュテットは、「家畜とは人類が利用するために野生動物を遺伝的に改良したもの」との前提から、「人間は野生動物よりも、むしろ家畜と似たところがある」と考え、「家畜は人間が野生動物を人為交配することによってある目的のために改良したもの

だが、人類は無意識のうちに自己をある方向に『改良』、つまり『自己家畜化』した産物ではないだろうか」との興味深い説を唱えたのです。つまり、人類は他の動物を家畜化しただけではなく、自分自身をも家畜化してしまったとの大胆な仮説です。

家畜化された思考

この仮説は、産業革命に代表される近代化に伴い、衣食住や労働を含めた生活の総体が量産化されるようになった状況を背景に提唱されたものだと考えられますが、同種の指摘はフランスの社会人類学者クロード・レヴィ=ストロース(1908-2009年)によってもされています。すなわち、レヴィ=ストロースは西洋の文明社会が発達させた「科学的思考」(la pensée scientifique)が、「栽培／耕作された思考」(la pensée cultivée)ないし「家畜化された思考／飼い慣らされた思考」(la pensée domestiquée)とも呼ぶうるものだと言って批判を展開しています。この思考は、地球および宇宙をも含めた自然万物という外界を科学という名の体系内に「飼い慣らす／囲い込む」性質を持っており、彼はことにこの思考の特質が「効率を高めるため」のものであることを問題視します。

確かに、効率化や合理化は現代社会がモットーとするものですし、特にこ

の状況はTPPに象徴される資本主義システムによって、農業や食料、医療や教育をも含めたすべてを画一化しようとするグローバリズムとして、確実に世界を飲み込もうとしているように思えます。

野生の思考——ブリコラージュ

しかし、レヴィ＝ストロースは「家畜化された思考」に支配されつつある世界に省察を促す提言をしています。彼は「家畜化された思考」の対立概念として、「神話的思考」(la pensée mythique)に代表される「野生の思考」(la pensée sauvage)を措定し、その特質として「ブリコラージュ」(bricolage)という概念をあげます。

「ブリコラージュ」とは、創意工夫して手仕事で道具を編み出すことに表象される古来の人類の知の様相を表すものです。したがって、家畜化された思考が「効率を高めるために画一化した規格品を作るものであるとすれば、「野生の思考」は創意工夫してそのときどきに必要な新たなものを自らを作り出していくというものです。彼は西洋世界が非効率的（非合理的）として切り棄ててしまった「未開社会」や古来の英知の大切さを再発見しようとしているのです。

良い羊飼いいエス

良い羊飼いの譬における羊飼いと羊の関係は、実は通常のものとは異なります。なぜなら、冒頭の聖書の後半には、「良い羊飼いは羊のためにその命を棄てる」と書かれており、これはイエスが十字架刑によってその命を落としたことを象徴的に言い表しているからです。したがって、羊飼いと羊の関係を人間関係に当てはめて考えるのは、羊のためにその命を棄てるという前提があるからです。それはイエスという稀有な人物との関係性としては、あるいは成り立つかもしれません

が、これを人間関係の全体に敷衍して当てはめることは危険だと言わざるをえません。

建学の精神とブリコラージュ

最近「社畜」という言葉を聞きますが、これはまさに「自己家畜化」を危惧する発想だと言えます。同様の危惧は「一億総活躍社会」というスローガンからも感じられます。確かに、サプリメントを飲み、同じブランドの服を着て、一様に社会（会社）のために働き、その規格から外れる者には社会不適合者の烙印を押すというのは、「自己家畜化」の典型と言えます。

本学の創立者黒澤西蔵は、「三愛精神」（神を愛し、人を愛し、土を愛する）とそれに基づく「健土健民」を提唱しました。これは「科学的思考」（家畜化された思考）とは異なる、彼のキリスト教信仰に基づく「神話的思考」（野生の思考）に彩られたブリコラージュです。

現代社会はレヴィ＝ストロースの危惧した効率化や合理化が声高に叫ばれ、「社畜」に象徴される「自己家畜化」が深刻化しています。

卒業生のみなさんには、自分自身で考え行動するという、創意工夫に満ちたブリコラージュな生き方を通して、効率化や合理化によって切り棄てられてしまったものを大切にしてくださることを心から願っています。



本学の羊たち（大学HPより）

ただ「共にいる」こと



獣医学類 衛生環境学分野獣疫学ユニット 蒔田 浩平

卒業生の皆さん、
ご卒業おめでとうござ
います！

このような御目出度い門出に皆さんにお渡しされる「出会い」に、メッセージを書く機会を得ましたので、皆さんに大切に思っていたきたい小さなことを一つ書かせていただきます。

私が本学に赴任したのは2010年4月のことです。本学では多くの貴重なお仕事をさせていただき、異なる学科の様々な学生さん達との出会いがありました。赴任直後、宮崎県で口蹄疫が発生し、大きな流行となりました。本学教員も含む関係者の努力により7月には終息しましたが、29万頭もの動物が病気の制圧のため殺処分になり、多くの農家や畜産関係者が非常に辛い思いをしました。私は今日卒業の学生も含む学生達、宮崎県内の農業団体、医師・獣医師を含む県庁との合同研究チームの一員として、畜産関係者の心のケアの仕事をしてきました。

また翌年3月には東日本大震災が

発生し、当時の高橋一宗教主任が中心となって、岩手県大船渡市と宮城県石巻市でのボランティア活動が始まりました。私が石巻に入ったのは6月初めで、避難所から半壊した自宅に戻った被災者の方々へ食事や必要品を供給するライフライン確保が主な活動でした（写真は魚加工場でのヘドロ除去）。学生と工事現場としてよく用いられるスーパーハウスの寝起き・炊事は、被災者の方々との辛い気持ち・状況を共有するハードな毎日の中でも元気を保ち続けることにとっても大切な役割を果たしたと思います。当時共に寝泊まりした学生達は皆就職し、またこの度就職し、元気に歩んで行っています。



写真. 石巻市で被災した魚の加工場でのヘドロ除去作業。駆けつけてくれた高橋一先生(右から二番目)と。

2011年夏には、学部（当時）を越えて構成された本学の研究チームで、石巻市の津波被災地域の環境ならびに精神保健リスク評価をしました。精神保健リスク評価では、3か所の仮設住宅で質問票調査をし、科学的知見を仮設住宅居住者へのサポートに役立ててもらおうと、市役所・保健所に調査結果を還元しました。また結果を広く仮設住宅居住者にもお伝えしたいと思い住民用で作成したチラシは、本日ご卒業の学生達がデザインしたものでした。その住民への結果還元用のチラシを設計するために仮設住宅を訪問した時のことです。調査が終わった時、一人の方から「興味があることを調べに来て、私たちの気持ちのことは考えたのか」と叱られてしまいました。私の、その他大勢の仮設住宅居住者をサポートしたい気持ちは本当でした。しかし、目の前のその人の気持ちに寄り添うことが、きっと出来ていなかったのだと思います。

皆さんが学んだ酪農学園の建学の精神は「神・人・土」の三愛精神と健土健民思想です。皆さんには卒業後、想像以上にこれが自分に染み付いていることを感じる時がくるでしょう。聖書にはこう書いてありま

す。「たとい、私が人の異言や、御使いの異言で話しても、愛がないなら、やかましいどらや、うるさいシンバルと同じです」（コリント人への手紙一 13章1節 [新改訳]）。まさに、私の調査での対応は、仮設居住者全体へのサポート方法の精度を高めることに集中してしまい、目の前の被災者への愛がなかったのだと思います。

逆に酪農学園で学んだ皆さんは、自分に染みついた三愛を用いて、金太郎飴のようにいつも変わらず歩んで行って欲しいと思います。それには、成果主義や偉くなりたいという欲望に惑わされず、仕事や家庭で、誰のために自分の時間と労力を捧げるか分かっていることが大切だと思います。皆さんの目の前にいる人、あるいは目の前にいないけれども仕事の対象となる人たちに、皆さんの愛が届くようにしてください。そのために必要なのは「成果」ではなく、ただ共にいること、かも知れませんが（もちろん社会で成果は重要です！）。本学の卒業生ならきっと、それが大切だと思えると信じています。これからの歩みに、皆さんと同様に、皆さんの周りにいる人に幸がありますように。

共に生きることを目指して



日本キリスト教団野幌教会牧師 朴 美愛

皆さん、卒業おめでとうございます。それぞれ4年、6年間の酪農学園大学での生活を終えて社会への新たな人生の出発に希望と共に不安もあるのは間違いないと思います。が、皆さんならば大丈夫です。

私は朴 美愛（バク ミエ）と申します。考えてみると、皆さんは私が酪農学園に勤めていた時にキリスト教学を担当した最後の年の学生だったと思います。現在、私は日本キリス教団・野幌教会で牧師として働いています。野幌教会は酪農学園大学から生まれた教会で、草創期は礼拝堂も酪農学園の敷地内にありました。それは、酪農学園大学がキリスト教の精神を基にしていることを象徴的に表していたことだったと思います。後、教会は成長と共に地域での役割と使命を考えて現在の場所に移転することになったようです。野幌教会は今でも、教会員の中に酪農学園と関係がある人が多くて、酪農学園とは切ろうとしても切れない親密な関係にある教会です。

皆さんが今から歩んで行く新しい人生の道に力になることは何でしょうか。今までの学んできた学問や多様な経験、また様々な出会いは今すぐでは

なくても、必要な時にいつかは必ず力になることは間違いないと思います。その中で皆さんが忘れないで、ぜひ覚えてほしいことがあります。それは、建学の精神である「神を愛し、人を愛し、土を愛す」という「三愛精神」です。創立者黒澤酉蔵先生はデンマークを敗戦のどん底から世界一の酪農国、福祉国家に導いたグルンドヴィ牧師の聖書に基づいた思想、「三愛精神」との出会いによる新たな導きがあり、「三愛精神」を酪農学園大学の「建学の精神」にしたのです。そして、酪農学園大学で学び、「三愛精神」に出会った多くの卒業生が新しい価値観と世界観に導かれて、社会で、日本は勿論、世界中で献身的に働いているのです。皆さんも今後その一人になることに違いないと思います。

「三愛精神」の『神を愛す』ということは、『神は創造主としての神であ



草創期の茅葺會堂 1948年

り、人は被造物としての人である』認識から出発します。『神を愛する』ということは、神に創造された神の被造物である『人と土（自然と環境、あるいは宇宙万物）を愛する』ということを表します。一言で言うと、『人間らしく共に生きる』ということです。人が共に生きる対象が人であり土（自然、環境）であるということです。

大学の建物の何ヵ所かの壁に聖書の言葉が刻まれてあります。その中の一つ、C1号館の外壁には、「Tribulation produces perseverance; and perseverance, character; and character, hope.」（Romans 5:4）と英語で刻んであります。日本語では、「苦難は忍耐を、忍耐は練達を、練達は希望を生むということ」という新約聖書のローマの信徒への手紙5章3、4節の言葉です。前後の聖書の言葉を見ると「³苦難をも誇りとします。わたしたちは知っているのです、苦難は忍耐を、⁴忍耐は練達を、練達は希望を生むということ。希望はわたしたちを欺くことはありません。わたしたちに与えられた聖霊によって、神の愛がわたしたちの心に注がれているからです」と記されてあります。この言葉が皆さんの力になりますように贈る言葉としたいです。

昨年の年末、知人と一緒に食事に出かけました。お店に入って注文をしようとしたら“先生、今晚は。お久しぶりです”と元気で笑顔で挨拶をする人がいました。私は、誰だろうといくら考えてもすぐには思い出せませんでしたし



た。しかし、相手は“酪農学園大学の学生です。先生にキリスト教学を学びました。今は4年生で、このお店ではアルバイトをしています、就職も決まりました”と自分のことを積極的に紹介してくれました。食事をする時、自然に話題はこの学生のことでした。いつからでしょうか、若者が挨拶は出来ない、消極的で内向き、元気がないと言われるようになったのは。ある意味では当たり前なことなのに。お店だからというわけでもなく、自然に元氣よく笑顔で挨拶をして、自分のことを語ることに新鮮な衝撃を受けました。その日は、とっても嬉しくて、美味しい食事が出来ました。そして、その学生との出会いに感謝の気持ちで胸がいっぱいになりました。一緒にいた知人にも自慢しながら大学のことを語りました。私は以前5年間を酪農学園大学の教育に携われたことを誇りに思っています。皆さんも酪農学園大学の卒業生であることが誇りに思う日がくるでしょう。

まず、お体に気をつけて与えられた日を誠実に一步一步歩いて下さい。皆さんの新たな出発に神様の豊かな祝福をお祈りいたします。

卒業式は「収穫感謝祭」



環境共生学類 資源再利用学研究室 押谷 一

アメリカとカナダの祝日の一つに収穫感謝祭があります。アメリカでは、毎年11月の第4木曜日、カナダでは毎年10月の第2月曜日となっています。

17世紀の初め、イギリスの清教徒達が自由な世界を求めて新大陸に上陸しました。当初は、食物を得るために大変、苦勞しましたが先住民族の教えによって厳しい冬を越え、荒地を耕して秋には農作物を収穫することができました。新大陸で新たな生活を始めた人びとが農作物の収穫を感謝し、先住民族の教えを守るために収穫感謝祭を行い、これを国民の祝日としたといわれています。

酪農学園大学でも、毎年秋に収穫感謝祭を行い、一年生の基礎ゼミ農園に関するパネル発表、農場で収穫された野菜やお肉を使ったカレーライスなどをいただき楽しい一日を過ごされたことと思います。

秋に多くの農作物を収穫するためには、春に種をまき、肥料や水を与え、雑草を取らなければなりません。聖書のなかには、このような農作物の収穫や種まきのことなどがいくつもでてきます。

例えば、ルカによる福音書8章4節

あ と が き

◇ご卒業おめでとうございます。これから荒海のような社会に漕ぎだすみなさん、笑顔を忘れずお元気で活躍ください。(H.O.)

◇ご卒業おめでとうございます。2011年3月11日から5年が経ちました。被災地の復興も原発事故の影響も、こ

から8節には「大勢の群衆が集まり、方々の町から人々がそばに来たので、イエスはたとえを用いてお話しになった。『種を蒔く人が種蒔きに出て行った。蒔いている間に、ある種は道端に落ち、人に踏みつけられ、空の鳥が食べてしまった。ほかの種は石地に落ち、芽は出たが、水気がないので枯れてしまった。ほかの種は茨の中に落ち、茨も一緒に伸びて、押しつぶさってしまった。また、ほかの種は良い土地に落ち、生え出て、百倍の実を結んだ。』イエスはこうに話して、『聞く耳のある者は聞きなさい』と大声で言われた」とあります。

みなさんは、酪農学園大学というすばらしい環境に出会い、そこに撒かれた種の一粒です。そして多くの楽しいこと、悲しいこと、悔しかったことなどを経て、卒業式という収穫の時を迎えましたが、入学の時に較べて多くの知識や体験を身に付けて何百倍も成長したことと思います。

収穫は、ゴールではありません。新たな収穫のためのスタートでもありません。これから、みなさんは、それぞれ新しい場所で活躍することになります。良い土地に落ちた種はやがて百倍の実を結びます。これからも様々な出会いとともに大きく成長して、豊かな収穫を得てください。

の時期以外はあまり報道されていません。大切なことほど小さくされ、些細なことほど大きくされているように感じます。社会に出る卒業生のみなさんが、小さなことに目を留めることのできる人で在って欲しいと願っています。(A.K.)

酪農学園大学キリスト教教育委員会

〒069-8501 北海道江別市文京台緑町582番地

Tel. 011-386-1111 (代表)